

## ●利用者7● 80代夫婦【夫婦一緒にの支援・レスパイト】

- ✓透析が必要な妻と認知症の夫。異なる医療・介護ニーズを有する夫婦を一緒にの場所、事業所で支援することができることが看護小規模多機能型居宅介護のよさ
- ✓泊まりの利用で、娘の介護負担も軽減

### 1. 利用者の基本情報

世帯構成	夫婦と娘夫婦。
介護力	主たる介護者は娘。時間帯によって介護可能。

(妻の状況)

要介護度	要介護1				
障害高齢者の日常生活自立度	A2	認知症高齢者の日常生活自立度			IIb
ADL	移動	食事	排泄	入浴	着替え
	見守り	自立	見守り	見守り	見守り
主な傷病	・慢性腎不全 ・I型糖尿病性腎症 ・心房細動				
必要な医療処置	・透析 ・インスリン注射 ・服薬管理				
ターミナル期	ターミナル期ではない	病状の安定性・悪化の可能性		不安定・悪化の可能性あり	

(夫の状況)

要介護度	要介護1				
障害高齢者の日常生活自立度	A1	認知症高齢者の日常生活自立度			IIb
ADL	移動	食事	排泄	入浴	着替え
	見守り	自立	見守り	見守り	見守り
主な傷病	慢性閉塞性肺疾患、両変形性膝関節症、変形性腰椎症				
必要な医療処置	・服薬管理 ・便通コントロール				
ターミナル期	ターミナル期ではない	病状の安定性・悪化の可能性		安定・悪化の可能性少ない	

### 2. サービス提供の状況～夫婦揃ってのサービス提供～

#### ○利用の目的

- ・妻は週3回の透析治療が必要で、夫は認知症であった。2人だけで暮らすのは難しく、娘も仕事等があり、常に両親をみることは難しい状況にあった。
- ・妻は透析が必要のため「短期入所生活介護」の利用が難しく、夫は認知症のため病院への入院が難しく、夫婦そろって病院への入院やショートステイ利用ができない状況にあった。
- ・看護小規模多機能型居宅介護において、それぞれに対して適切に医療、介護を提供できることから利用を開始した。



